



Echo No.160
 令和3年 春彼岸
 院 寺 寺
 峰 福 林 禅
 一 禅 禅 宗
 * * * *
 羽村臨済会

羽村の田んぼのチューリップ

春がやってきました。羽村の春といえ
 ば、田んぼのチューリップが有名です。

羽村の皆様はご存じですが、一峰院さ
 んの門前に広々とした田んぼがひろがっ
 ています。昨年は、この田んぼで収穫さ
 れたお米を使った日本酒「はむら」が生
 産・販売されましたが、この水田が春に
 なると、一面チューリップの花園となり
 ます。十年前の四月、羽村に引越してき
 た私の妻が真っ先に案内してくれたのも
 このチューリップの花園でした。春の暖
 かな日差しと色とりどりのチューリップ
 が眩しく映ったのを思い出します。

お彼岸が終わると、四月八日はお釈迦

様の誕生日をむかえます。昔から「花祭り」

の呼び名で親しまれています。故郷に帰省
 して出産しようと旅路急いでいた釈尊の
 母である摩耶夫人が、旅路の途中で産気
 づき、道すがらの花園で出産という伝承
 があり、花祭りと呼ばれるようになりま
 した。いまここに二つとない尊い命を授
 かった喜びを釈尊は「天下天下唯我独尊
 (てんじょうてんげ ゆいがどくそん)」
 の言葉で表現されました。

この一年コロナの嵐が吹き荒れ、我々
 もどこかいつもと違って浮足立っていた
 のではないかと思えます。コロナ患者を
 受け入れる病院や医療従事者の方への誹

謗や時短営業下営業しているお店、果て
 は緊急事態宣言下での公園で遊んでいる
 子供たちへの中傷の報道もありました。
 オリンピックでは男女差別、アメリカで
 は人種差別と、何だかお互いに足を引っ
 ぱり合っているようにも見えました。

咲いた、咲いた、♪

チューリップの花が、♪

なぐらんだ なぐらんだ、♪

あか、しろ、きいろ、♪

どの花 見ても、きれいだな、♪

童謡「チューリップ」

どの花見てもきれいだな。チューリッ
 プは赤、白、黄色と様々な色があります
 が、お互い色がちがうからこそ、一緒に
 咲いた時の味わいは深く、お互い色が違
 うからこそ、一つ一つが際立つのではな
 いかと思えます。

チューリップの花言葉は思いやりだそ
 うです。浮足立っている時こそ、思いや
 りのところが大切なことを羽村のチュ
 リップが伝えてくれているよう感じます。

(宗禅 和正)



〜禅語に学ぶ〜

幸せはすぐそこに

寒さも和らぎ、暖かくなってまいりました。境内の梅の木にも花が次々と咲き、春の訪れを感じます。

このご時世からか、咲き誇る梅の花を見ると、心までも温かくさせてくれる気がいたします。例年春は変わることなくやってきますが、その年々によって感じ方が変わるの、人間ゆえのものですね。「春の梅」と申しますと、このような言葉がございませう。

「春在枝頭已十分」

「春は枝頭(しとう)にあつて已(すで)に十分」と読みます。この言葉は、中国宋の時代、戴益(たいえき)という詩人の「春を探るの詩」の一節です。

終日尋春不見春

(終日春を尋ねて春を見ず)

杖藜踏破幾重雲

(あかざを杖つき踏破す幾重の雲)

归来試把梅梢看

(帰り来たりて試みに梅梢を把りてみれば)

春在枝頭已十分

(春は枝頭に在つて已に十分)

春を一日中探して歩き回つてみたもの、見つけることは出来なかつた。藜の杖をつき足をひきずりながら帰つてきた。ふと家の梅の枝に手を伸ばしてみたところ、なんとつぼみが膨らみ香りを放つていた。まさに探していた春は自分の家にあつたのだ。という意味です。春を探しに歩き回らなくとも、こんなにも身近にあつたのだということですね。また、禅語としては「人は幸せを自分の心の外側に求めるが、身近にこそ存在する」という意味もございませう。

幸せというのは、遠くに探し求めるのではなく、已にあるということに「気づく」ことも大切です。

家族と一緒にいられること、毎日おいしい食事がとれること、気の合う友人がいることなど、当たり前前に感じているものこそ本当の幸せなのです。

「已に十分」な状態であると気がつくことで心に余裕が生まれ、毎日を生き活きと過ごすことが出来るのではないでしようか。

コロナ禍で外出することが難しい今だからこそ、身近な幸せを探してみたいかがでしよう。物を無くしたときと同じように、意外と目の前にあるものですよ。

(禅福 尚玄)



禪と共に歩んだ先人

山岡鉄舟 V

臨濟禪と接し、その精神性や美意識に感化される事により、自分自身を高め、偉大な功績を残した先人達を紹介する。という趣旨で進めていこうというこの項ですが、前回に引き続き、幕末から明治にかけて活躍し、現代の日本のあり様にも大きな影響を与えているといえる「山岡鉄舟」についてお話させていただきたいと思えます。

赤貧生活

山岡家の婿養子となり、所帯をもった鉄舟でしたが、その生活は楽なものではありませんでした。亡くなった静山には母があり、また妻英子のほかに妹、弟がいて、それらを養っていかねばならなかったのですが、山岡家は薄給で食べていくのがやつの有様、講武所（幕府が旗本子弟の武術鍛錬のため作ったもの）の

世話役にはなったのですが、さほど手当をもらえないものでもなく、さらに鉄舟が「尊皇攘夷（天皇をあげ、外国人を排斥する）」の国事に奔走しはじめて、その貧困に拍車がかかったのです。

嘉永六年（一八五三年）ペリー率いる黒船が浦賀沖に來航しました。国力を背景に威圧的に開国を迫るペリーに幕府は屈し、翌年「日米和親条約」を締結させられました。永年続いてきた「鎖国」政策が終わったのでした。そういった時代背景のもと、活発になったのが尊皇攘夷の思想でした。ちなみにその時鉄舟は十七歳、結婚は二十歳の時でした。貧しいながらも剣と禪の精進を欠かさない鉄舟でしたが、二十三歳のころ、再びやって来たペリーの艦隊に、今度は「日米修好通商条約」という新たな不平等条約を結ばされた幕府の姿勢を見て、憂国の志を抱く様になりました。江戸には諸藩を脱藩してきた浪士が多く集まっています。志を同じくする者たちと交友を重ねていったの

でした。少ない収入の中、志士達との交流で家計はたちまち逼迫し、米にも事欠き、落ちていく菜葉を漬けて食べる様になりました。金に困って家財道具から着物までだんだん売り払い、畳まで売ったので八畳の間に畳を三枚残してガラガラになってしまったそうです。一枚に机があつて、ほかの二枚が寝食、接客の場になりました。何年たつても畳替えができないのでポロポロになって、机の畳は座る所が丸くくぼんで、しまいには床板に届いてしまったという事です。冬の夜も夜具が無く、ポロポロの古蚊帳にくるまって、夫婦で寒中抱き合つて寒さをしのぎ寝たそうです。

衣食住、完全に破綻している様に見える山岡家ですが、妻英子は何も不平をいわず、また鉄舟もその貧しさを楽しむかの様に過ごしていました。そんな中で鉄舟の人生を変える人物と邂逅します。それが出羽の浪人、清河八郎でした。

以下次号（二峰 義紹）



禅寺雑記帳

◆新型コロナウイルス感染症の禍は未だ収まらず、年初から首都圏は緊急事態宣言が出たままでしたが、ワクチン接種も順次行われる予定とのこと、長く暗いトンネルの出口がようやく見えてきたようです。皆様にとつて良い新年度になりませう願ってやみません。

◆お釈迦さまは私たちの生きるこの世界を「サハ」と呼びました。これを音訳したものが「娑婆」で、意識したものが「忍土」です。「苦しみを耐え忍ぶ場所」というのがこの言葉の意味なのです。

◆お釈迦様は苦しみの原因を「思い通りにならない」「事とされまされた」「生まれ(性別、容姿、能力、環境など)は選べないし、「老い」「病氣」「死」のどれも避けようがありません。この根源的な四つの思い通りにならない「生老病死」の事

を「四苦」といいます。

◆さらに、愛する人と別れなければならぬ「愛別離苦」、嫌な人とも関わりなければならぬ「怨憎会苦」、求めても手に入れない「求不得苦」、人としての体と精神を構成する五つの要素から生じる「五蘊盛苦」の四つの思い通りにならない事をあわせて「四苦八苦」といいます。

◆私たちの生きるこの世界は「何一つとして自分の思い通りにならないから耐えなければいけない世界」なのです。

◆私たちは科学や文明の発達進歩によって色々な事をコントロールして、毎日「思い通りに」生きていくつもりになつていたのでないでしょうか。特にスマートフォンを手にすると万能の力を手に入れたかのように錯覚し、それによって自分と違う意見を目にする攻撃を始め、まるでそれが正義であるかのように自分の言葉に酔い、袋叩きにして引きずりおろすといったような不寛容の連鎖は目に余ります。

◆「思い通りになる」ことが「当たり前」だから、「思い通りにならない」事を受け入れられずにイライラする、これが今の私たちで、コロナ禍はこれが大間違いだつた事を教えてくれたのです。

◆本当は何もかも自分の「思い通りにならない」事が「当たり前」なのです。ウイルスなどによる疫病、地震や台風などの自然災害を私たちが完全にコントロール出来る筈がありませんし、また世の中には色々な人がいて、自分の違う意見があるのが当たり前なのです。

◆「思い通りにならない」事が「当たり前」なのだと考えられたら、日々の生活が少し楽に過ごせるようになると思いますが、そんな中で、もし「思い通りにならない」事があつたらその時本当に「有り難い」事だと感謝して、幸せを感じることが出来るのではないのでしょうか。

◆コロナもやがて終息する筈です。その後喉元過ぎれば熱さを忘れるとならないようにしたいものです。(禅林 恭山)